

教師を目指す困難さと、私にできること

棚倉中学校 3年

須藤 佑樹（すとう ゆうき）



人は皆、それぞれ大小様々な夢を持っています。夢は、全員が必ず叶えられるものではありませんが、叶えようと努力することはできます。私には必ず叶えたい夢があります。それは「教師」になるという夢です。

「教師」とは、日本の未来を支える子ども達の将来の為に多くのことを教え育てる仕事です。なぜ、そのような仕事をしたいのか、それは、私の小学五、六年だった時の担任の先生に影響を受け、私も同じようになりたいと思ったからです。普通の先生ならば、児童や生徒とある程度のところで境界線を引きます。しかし、私の当時の担任の先生は、その境界線を引こうとしませんでした。児童とプライベートの話などをしていて、友達のようにいて、友達ではない関係をつくりあげていたのです。私は、あれほど親近感がわいた先生は今まで出会ったことがありませんでした。私は、子ども達とそんな上手に関係をつくれる先生と一緒に同じ教壇に立ちたいと思っています。そのためにも必ず、教師になりたいのです。

しかし、現在、日本には少子化問題があります。この日本が直面している少子化問題は「教師」という夢を叶えるにあたって大きな障害になってしまいます。少子化が進むということは、簡単な言葉にすると、子どもの数が減少していくという意味です。子供の数が減少すると、学校の学級数が減少します。学級数が減少すると、それに比例して雇用する教師の数も減少していきます。最悪の場合、学校自体が廃校になってしまう可能性もあるのです。

更に、私の住む福島県を、5年前の3月11日に未曾有の大地震が襲いました。地震によって引き起こされた津波や、福島原発事故は未だ各地に爪跡を多く残しています。避難を余儀なくされた子ども達は多くおり、その分の学校の児童、生徒数が減少し、学校運営が正常にできなくなっています。

それら二つの要因が重なることで確実に福島県の学校数は減少しています。実際に、文部科学省の平成27年度学校基本調査によると、前年度より小学校は10校、中学校は5校減少していることが分かりました。教員数も、調べてみると前年度より小学校は85人、中学校では87人減少しています。

この問題は、今の私にはどうすることもできません。私が成人している頃には、このままいくと学校は更に減少し、教員数も確実に減少することでしょう。しかし、だからといって、このまま教師になるという夢を叶えられないまま終わるわけにはいきません。この問題を自分でどうにかすることはできませんが、自分自身をどうにかすることはできます。

私は、棚倉中学校の生徒会長を務めています。この役を務めているという経験は必ず教師になったとき、私自身の役に立つと考えています。例えば、代表としてお礼の言葉を言ったり、多くの場で説明したりします。これは大勢の前で発表することへの慣れと、他の人に物事を教えるという経験を得ることができていると思います。また、学校をより良くするために、どう活動していくか、どのようなことを目標にするのかを話し合うことがあります。これは、もし教師になってクラスを受け持つことになったとき、クラスをよくするにはどうすればよいのか、考える時の役に立つと思います。

さて、先ほど話した棚倉中学校をより良くするための目標として、私たち生徒会本部は「凡事徹底～当たり前前を当たり前」に掲げました。これは、主に八つの事柄で構成されます。一つ目に「主体的に行動できる」、二つ目に「規律正しく」、三つ目に「黙動清掃」、四つ目に「学習環境を整える」、五つ目に「遅刻者ゼロ」六つ目に「専門委員会と部活動の活性化」七つ目に「入試への意識向上」、最後に「生徒の意見を大切にします」です。私もこの目標を実現させるために、朝の挨拶運動や、清掃中の見回りなど、様々な活動を行っています。とても大変ですが、昨年度よりもやりがいのある活動ができていると感じます。

まだまだ、棚倉中学校には課題が多くあります。その課題を一つ一つ解決していき、史上最高の棚倉中学校に発展させていきます。この経験を教師になったときに生かし、凡事徹底を掲げ、頑張ってみせます。